

松隈洋ワークショップシリーズ vol.2

# 建築家

# 前川國男の世界

## 「木村産業研究所」記念すべきデビュー作「秋編

弘前市になぜ8つの前川國男建築が存在するのか。  
その関係性と作品の魅力に迫るワークショップシリーズです。  
2回目の秋編では「記念すべきデビュー作」の意味について、  
木村産業研究所を深堀りします。

日時 2024 10.5(土) 14:00~16:00

1日目

弘前市民会館(大会議室)

座学

2日目

2024 10.6(日) 10:00~15:00

木村産業研究所  
見学&ワークショップ

※全2回、どちらか1日でもご参加いただけます。  
※両日とも開始30分前から受付いたします。

参加費 2日間通し 2,000円(1日のみ参加 1,000円)

定員 各回30名

お申し込み方法 窓口またはお電話でお申し込みください。

お申込み  
お問合せ

弘前市民会館 TEL 0172-32-3374

9:00~17:00 〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1番地6  
休館日/毎月第3月曜日(月曜日が休日の場合、翌日)

主催:弘前市指定管理者 ひろさきトルツリーグループ(弘前市民会館)  
後援:弘前市 協力:前川國男の建物を大切にす会



講師 松隈 洋

神奈川大学教授  
京都工芸繊維大学名誉教授

講師プロフィール・ワークショップの詳細に  
ついては裏面をご覧ください







## 講師 松隈 洋 HIROSHI MATSUKUMA

神奈川大学教授／京都工芸繊維大学名誉教授

1957年兵庫県生まれ。1980年京都大学工学部建築学科卒業、前川國男建築設計事務所入所。2000年4月京都工芸繊維大学助教授。

2008年10月同教授、2023年4月から現職。工学博士(東京大学)。専門は近代建築史、建築設計論。主な著書に、『建築の前夜 前川國男論』、『ル・コルビュジエから遠く離れて』、『モダニズム建築紀行』、『ルイス・カーン』、『近代建築を記憶する』、『坂倉準三とはだれか』、『建築家・坂倉準三「輝く都市」をめざして』、『残すべき建築』、『前川國男 現代との対話』(編著)、『建築家・前川國男の仕事』(共編著)、『建築家大高正人の仕事』(共著)、『日本建築様式史』(共著)など。「生誕100年・前川國男建築展」(2005年)事務局長、「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展(2000年)と「同100選」展(2005年)のキュレーションの他に、A・レーモンド、坂倉準三、C・ペリアン、白井晟一、丹下健三、村野藤吾、谷口吉郎・谷口吉生、吉村順三、大高正人、増田友也、山本忠司、浦辺鎮太郎、瀧光夫、鬼頭梓など、多くの建築展の企画に携わる。

DOCOMOMO Japan代表(2013年5月～2018年9月)。文化庁国立近現代建築資料館運営委員(2013年4月～2020年3月)。同志社大学兼任講師(2009年4月～2012年3月、2018年4月～2021年3月)、京都芸術大学非常勤講師(2011年～)。2019年に著書の『建築の前夜 前川國男論』により日本建築学会賞(論文)受賞。



前川國男と国立音楽大学附属幼稚園の竣工式にて(1983年10月8日)

## ワークショップ内容

### 1日目 座学 [会場] 弘前市民会館 大会議室

～前川國男が師事したル・コルビュジエとは誰か～

前川が1928年3月31日の東京帝国大学建築学科の卒業式の夜に渡仏し、2年間パリのアトリエで師事したのが、ル・コルビュジエ(1887～1965年)でした。独学で建築を学び、建築家を志した彼は、建築に何を求めたのでしょうか。2016年、ユネスコは、東京上野の国立西洋美術館(1959年)を含む、フランス、スイス、ドイツ、ベルギー、インド、アルゼンチンの計7か国に現存する17件の建築を、「近代建築運動(Modern Movement)への顕著な貢献」との評価により、世界文化遺産への登録を決定します。なぜ彼はこのような高い評価を受けたのでしょうか。

今回は、20世紀モダニズム建築の最重要な先駆者であり、前川に多大な影響を与えたル・コルビュジエの建築思想と切り拓いた設計方法について概説し、モダニズム建築の歴史的な意味について考えてみたいと思います。

### 木村産業研究所(1932年)について

～記念すべきデビュー作の意味～

ユネスコの世界文化遺産に登録されたル・コルビュジエの代表作であるサヴォア邸(1931年)の翌年に竣工した木村産業研究所は、若き27歳の前川の記念すべきデビュー作です。そこには、前川がル・コルビュジエから学んだ建築思想と設計方法の影響を読み取ることができます。日本における先駆的なモダニズム建築の試みであり、2021年、前川の建築として初めてとなる国の重要文化財に登録されました。

この建築で前川が求めたものは何だったのでしょうか。また、その経験は前川に何をもたらしたのでしょうか。木村産業研究所の歴史的な意味を検証し、前川の建築思想に与えた影響を考察します。



木村産業研究所仕様書



木村産業研究所を訪れたブルーノ・タウト(大川がい子氏所蔵)

前川國男のアルバムからサヴォア邸建設現場



### 2日目 見学&ワークショップ [会場] 木村産業研究所

前半では、前日の講義内容を踏まえ、木村産業研究所の外観、内部を実際に見て回り、建築物1つ1つの意味を実感していただきます。後半では、木村産業研究所に関わるクロストークを中心に、参加者の方とともに、「前川建築」について考える機会をつくります。